

第2回滋賀県総合教育会議 会議録

1 日時

平成27年6月22日（月） 17：45～19：35

2 場所

滋賀県庁北新館5-A会議室

3 出席者

三日月知事、藤田委員長、土井委員、河上委員、佐藤委員、宇野委員、河原教育長

【事務方】勝身理事、水上教育次長、川上教育次長、浅見管理監、森管理監、川崎管理監、佐藤教育総務課長、望月企画室長（司会）、安藤特別支援教育室長、辻本教職員課長、岩谷学校教育課長、佐敷学校教育課主席参事、梅本生徒指導・いじめ対策支援室長、藤堂人権教育課長、山崎生涯学習課長、中井スポーツ健康課長、森井子ども・青少年局副局長、（教育総務課）河井企画員、菊池主幹、廣沢教育企画主事、高田主任主事、吉岡主事、（学校教育課）西川主幹、中村主幹、臼井主査、村田主査

4 開会～大綱の策定について

司 会

それでは定刻となりましたので、ただいまから「第2回滋賀県総合教育会議」を開催いたします。本日は、皆様お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。本日の議題として、「大綱の策定について」そして「重点施策の取組状況について」議論を行った後、テーマを「多様な教育主体の取組みについて」と題しまして、議論をしていただくこととしております。配布資料については、次第のとおりでございますので、ご覧ください。

今年度、この総合教育会議では、教育ヒアリングとして、外部の教育関係団体など有識者を交えた議論をすることとしており、具体の施策構築へとつなげてまいりたいと考えております。本日は、その第2回目といたしまして「多様な教育主体の取組みについて」をテーマに、学習塾の志門塾様、おうみ進学プラザ様、また、株式会社タオ様からそれぞれ代表の方にお越しいただいております。

後程、テーマの議論に入る際に改めてご紹介させていただくこととしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは本日の会議をはじめたいと思います。

滋賀県総合教育会議運営要綱第3条第1項により、この会議の司会 は知事が行うこととされておりますので、以後の進行は三日月知事、よろしくお願いいたします。

三日月知事

はい、改めましてこんばんは。

それぞれにお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

総合教育会議の進行を務めさせていただきます滋賀県知事の三日月大造と申します。よろしくお願いいたします。

今年度に入りまして総合教育会議をスタートさせまして、ここの題字にもありますように、今回が第2回目でございます。今回は高校生の書道部にこの題字を記していただきました。膳所高校の書道部にお願いして書いていただきました。是非、自分たちの学校のことをどうするかということ、高校生、中学生、小学生の皆さんにも考えていただけたらと思います。また、本日は17時45分からという変則的な時間にもかかわらずご協力いただきましてありがとうございます。今日は夏至ということで、1年で一番長いという昼間の時間を活用いたしまして

お勤め帰りのお父さんお母さん、皆様に傍聴していただければという、そういう趣旨もあって開催させていただきました。全ての時間を公開で、マスコミの皆さんにも公開でさせていただきたいと思いますので予めご了承をよろしくお願いします。なお、終了時間は 19 時 45 分というのですが、今日はライトダウンの日ということで位置づけておりまして、あまり遅くまで電気をつけて仕事をしないでおこうという趣旨の日でもございまして、時間厳守で進行させていただきたいと思いますのでご協力よろしくお願いします。

また、高校総合文化祭ののぼりを立てておりますが、今年、滋賀県では 7 月 28 日から 8 月 1 日まで、全国の高校の文化部の皆さんに、言ってみれば高校総体の文化部版ということで、秋篠宮殿下にもご来県いただき開催させていただくこととしております。みんなで盛り上げていきたいと思います。

それでは早速 1 つ目の議題ですが、「大綱の策定について」でございます。この大綱については、4 月に行われました第 1 回の総合教育会議で大筋の合意をいただいております。

具体的には、既に定められております第 2 期滋賀県教育振興基本計画に加えまして、前文に私自身の決意、思いを入れた形で、「滋賀の教育大綱」とすることとしておりました。

策定に向けた今後の進め方といたしましては、より多くの皆様のご意見をしっかりと伺おうという趣旨のもと、県議会の常任委員会にもご報告して、ご意見を頂戴しながら、本日の総合教育会議で合意をしていただければということでございましたので、この点につきまして事務局からご報告いただきたいと思います。

教育総務課長

(資料 1 に基づき説明)

三日月知事

さて、今お話がございましたように、法律が変わりまして、新しい教育委員会制度になり、大綱を定めることとされたことを受けて、我が県でどうするのかということを議論してまいりました。

ご案内のとおり、ちょうど平成 26 年の 3 月に、第 2 期滋賀県教育振興基本計画を定めて、大きく 3 つの柱で、今後 5 年間にどのような方針で子どもたちを育てていくのかということについて定めて、そして新年度になり総合教育会議がスタートし、大綱の策定を義務付けられたことにより、これをどうするのかということで議論してきました。

本件の総合教育会議の方針は、この教育振興基本計画を基本に据えて、

ここに前文というものを加える形で作成してはどうかということで議論を進めていますが、一部議会の中では既存の教育振興基本計画に前文を加えるだけでいいのだろうかという問題提起をいただいているところでございます。これについていかがでしょうか。

藤田委員長

よろしいでしょうか。滋賀県における教育振興基本計画は、先ほど知事もおっしゃっていただきましたように、パブリックコメントや議決を経た県民総意に基づくものとしてまとめてきたものであると、教育委員会として考えております。また、教育分野に関する施策を総合的かつ体系的に構築した中期的な計画であると考えております。知事と連携して施策を着実に進め、県民にわかりやすく発信することが本県の教育の推進に寄与するものと確信しておりますので、様々な考え方があるということも理解するところですが、基本的には、これまで議論してきた方向で進めてよいのではないかと考えております。

また、文言修正についても、時点修正であり、問題ないと思います。そういうことから、この案で進めていただきたいと考えており、是非この内容を形あるものにしていただき、教育委員会も、また関係者皆で努力し、よい教育を実現できるよう進めたいと考えております。

土井委員

先ほど事務局からも、また、ただ今委員長からもありましたように、本県の教育振興基本計画は、知事が県議会の議決を経て策定されているもので、ここまでしっかりした計画があり、それを現在実施している段階で、これと異なる大綱を策定するということは、かえって混乱を招く恐れがないわけではありません。また、今回策定していただく前文の内容については、この総合教育会議が始まる前の段階、昨年度の意見交換会の段階からしっかりと議論を積み重ねてきたものであり、教育振興基本計画の内容を踏まえて、知事と教育委員会の共通理解を、知事の言葉で示していただいたものだと思います。他の方法もありうる場所ですけれども、今回はこのような形で、知事のお言葉で県民の皆さんに直接滋賀県の教育の在り方、あるいは方針が伝わるような進め方をしていただけるのがよいのではないかと考えます。以上です。

三日月知事

昨年度から議論をしてきたところですが、ただ今、委員長や土井委員からもご意見がありましたように、この基本計画は、県民の皆様の意見を広く取り入れながら作ってきたということもありますので、むしろ、これは行政にありがちなことなのですが、計画の濫発で、書かれていることが実行されないという形よりも、計画に書かれていることを

しっかりと実現・実行していくということを旨として、そこに法律の制定を受けた前文というものを、この総合教育会議を主宰する私、知事の手紙で書かせていただいて、一部原文のものから、網掛けをしておりますような修正を加えさせていただいて、この2つをもって教育大綱とするという、この方向でよろしいでしょうか。

(各委員 異議なし)

三日月知事

はい、ではこういう方向で、議会を始め県民の皆様にも丁寧に説明をし、ご理解を得ていくようにしていきたいと思います。よろしくお願いします。

それでは次の議題でございますが、2点目、「重点施策の取組状況について」でございます。これについて事務局から説明していただき議論いたします。

5 重点施策の取組について

学校教育課主席参事

(資料 2 上段に基づき説明)

三日月知事

続いてもう 1 つの施策であります高校再編についてお願いします。

浅見管理監

(資料 2 下段に基づき説明)

三日月知事

この総合教育会議では、中長期的な課題もさることながら、その年度年度、その時々的重要施策について取組みを確認していこうということで、今日は 2 つ、「確かな学力」を向上させようということで、基本計画にもありますように、子どもたちの学力向上に取り組んでおりますが、その前提、基礎となる「学ぶ力」の向上については、全国学力・学習状況調査を受けた取組みをしていただいておりますし、放課後の活用ということで、ご紹介いただいたような取組みをしております。

また、もう 1 点の統合新校の開校ということについては、彦根と長浜で 2 校を 1 つにした「彦根翔西館高校」と「長浜北高校」がいよいよ来年開校予定ということで、準備を進めている現状についてご報告がございました。何か委員の皆様からご質問はありますでしょうか。

河上委員

放課後支援員について、こういった方がなっているのでしょうか。教員の O B などが多いのでしょうか。

三日月知事

はい、事務局どうぞ。

学校教育課主席参事

放課後の支援員については、校長 O B の方もおられますし、学校によっては学生がチューターという形で入っているところもございます。それぞれの学校の状況に応じて、学校が探している形でございます。

三日月知事

これは小学校だけですか。

学校教育課主席参事

小学校だけです。

三日月知事

その他ございませんか。

土井委員

全国学力・学習状況調査をどのように活用していくかという上で、各校で自校採点していただいて、各学校あるいは各教員の方に子どもたち

の状況をしっかり把握していただき、教育改善に活かしていただくということが一番重要な点だと思います。

自校採点の結果について、アンケート調査等を実施して把握しておられるということですが、今年度の分について、各学校で、こういった点に改善が見られ、また、こういった点に課題が見えてきているかということについて、現在分析の途中とは思いますが、教えていただけたらと思います。

学校教育課主席参事

まず、成果の方であります。小学校については、昨年度県の方で作成しました「つまずき診断テスト」や「学び直しプリント」等によりまして、子どもたちの弱点を把握し、コツコツと積み上げていただいている成果が、算数にも、他にも出ていました。

特に算数Aでは、計算問題では高い正答率になってきております。それから、中学校においては、日々の授業や家庭学習の積み上げによりまして、国語、数学ともにA問題の正答率が高くなってきております。国語の記述の出題で、無答率が非常に少なくなっていることが見られます。これは小学校でも同じで、意欲等の高まりが表れていると思っております。

課題については、小学校では、問題を読み取る力がまだ弱いと感じております。子どもたちが解答を答えるだけの授業から、これは、我々教師も脱却していかなければならないと感じているところです。

中でも、根拠を明確にし、考えたことを仲間と吟味できる学習になっていくように、指導者の学習を工夫、構成していく必要があるということ、各学校からもアンケートの中で答えていただいているところです。中学校においては、数学の証明問題など、論理的なものの考え方がまだ十分に身につけていない生徒も見られます。基本的な知識、技能を活用して考えたり、判断したり、表現したりする活動に、今後さらに力を入れていく必要があると考えております。

三日月知事

教育の課題はすべて、すぐに効果が表れるものではなく、すべて数字に表れるものでもないのですが、今のご説明にありましたように、せっかく行われた調査を受けて、出来ることはすぐにやっつけようということで、調査の分析を受けた対策であるとか、放課後をもっと使えるよね、ということで小学校を選んで重点的に取り組んでいただいている成果についてご確認をいただいております。

その他、資料上段の「学ぶ力の向上」に特化して何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。また調査結果で色々出てくるでしょうし、ちょっと粘り強く、しっかりやりたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは2つ目の統合新校の開設に向けてはいかがでしょうか。

藤田委員長

1ついいでしょうか。高校再編は色々ご苦労いただいたと思います。新しくスポーツ科学系列が彦根統合新校にできますが、知徳体のバランスが重要で、国体もあるのですが、授業の中身はどのようになるのでしょうか。スポーツの特進クラスのようなことなのでしょうか。

浅見管理監

彦根翔西館高校は総合学科の中に5つの系列を設けてございます。入ったときは総合学科で入学され、1年生の後半にそれぞれの系列を選択するというシステムになる予定です。パンフレットをご覧くださいとあるように、探究系列、スポーツ系列などの5つの系列を設ける予定であり、子どもたちはこの中から1つの系列を選ぶことになります。このスポーツ科学系列では、スポーツを科学的に探究する能力と態度を養い、競技力の向上を目的とする系列でございますが、4年制大学への進学や就職を目指す系列としてございます。特色としましては、体育の授業を通常よりも多く設定しております。通常、保健体育の授業は、週9時間を予定しておりますが、加えまして専門体育を3年間で21単位を予定しております。

三日月知事

これは入学前から選択するのですか。

浅見管理監

いえ、入学後、1年生の後半に系列を選択する予定です。

三日月知事

長浜は英語力が特徴ということですが、このNプロジェクトとはなんのでしょうか。

浅見管理監

パンフレットをご覧くださいますと、右ページの③にNプロジェクトとあります。これは長浜プロジェクトの略であり、英語、情報、総合的な学習の時間を併せ行う学習活動でありまして、主体的な英語学習の一形態として考えております。生徒が自ら考え、発信できる力を身につけることを目的としており、具体的には1年生の時に長浜について、産業などを学び、2年生では自分で収集した情報を英語で説明できるような、そして情報発信できるような力を身につけていこうというものでござ

います。

三日月知事

はい。他に何かありますか。よろしいでしょうか。それでは知事として要請しておきます。学ぶ力の方は引き続きやっていただくとして、平成 28 年度からの統合新校の開校に向けては、統合の過程から色々な意見、御懸念、御心配などあったと思います。生徒のみならず、OBの方、同窓会の方、地域の方などに対して、このようにパンフレットが出来て、こういう特徴のある学校だということをより丁寧に、特に進路指導等で中学生に対して学校の説明していただく市の教育委員会や学校関係者の皆様方にもより丁寧に説明をいただきたい。これ、結構急ぐと思うのですよ。3 年生の進路選択は、うちの子もそうですが一生懸命頭を悩ませています。もしかしたらもう既に遅いかもしれない、そういう意識をもってより丁寧に現場にご説明いただきたい。せっかくの特徴が、せっかくの統合新校が生徒の進路選択に結びつくように、ここは強く要請しておきたいと思います。よろしくお願いします。

他にありませんでしょうか。なければ、少し急ぎましたが、本日の 1 つのメインであります、皆様の色々なご提言の中で実現しました、外部の方々との意見交換に移らせていただきたいと思いますので、少し会場の準備をお願いします。

司 会

それでは少し準備をさせていただきたいと思います。まず、志門塾の成瀬様、ご準備のほどよろしくお願いいたします。

6 「多様な教育主体の取組について」

三日月知事

それでは改めてご紹介させていただきます。我々どうしても学校とか、行政だけで教育を捉えがちですが、私自身もそうですし、みなさんのお子さんもそうかもしれませんし、多くの県民の皆様がいろんな形でお世話になっております、例えば学習塾という立場から、滋賀県の教育について語っていただき、また、ICTを活用して色々な教育素材を開発していただく皆さまのお立場から教育を語っていただき、それを行政に反映していくということで、是非今日は限られた時間ではありますけれども、一緒に考えて参りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

順次プレゼンテーションを行っていただきます。ただ今少し和むものが配られておりますが、今日はちょっとリラックスして議論が出来ればということで、クッキーとシュークリームを配っております。クッキーは湖南農業高校の生徒が、シュークリームは長浜農業高校の生徒が、また併せて抹茶ラテというものが配られています。これは八日市南高校の生徒の皆様がそれぞれ作ってくださっています。農業を勉強している生徒が、自分たちのアイデアでつくってくれているものを是非講師の皆様にもご賞味いただければと思います。

少し前置きが長くなりましたが、それでは順次問題提起をしていただきます。まず最初に、志門塾から総塾長の成瀬正様に来ていただいておりますのでよろしくお願いいたします。それぞれ10分程度で順番にプレゼンテーションをいただいた後、質疑応答、意見交換をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

志門塾
成瀬 氏

皆様はじめまして。志門塾総塾長の成瀬と申します。

私どもは滋賀県で仕事をさせていただいておりますことを、まず御礼申し上げます。本部は大垣にありまして、我々よりもおうみ進学プラザ様が滋賀に根差して30年されている中で、このように来させていただいていることはありがたいと同時に、ひとえに、望月さんと高田さんが知事の教育にかける熱い本物の思いを伝えていただいたというところが大きいのです。それで、本日喜んで、ワクワクしながら来させていただいたという、そういう経緯がございます。

その中で、私、高尚なことは申し上げられませんが、実は原点はどこにあるかというと、私の実体験で、大学卒業後に司法試験を目指したのです。やってもやっても受からない中で、結婚もして、30歳

になっても受からないわけですから、こんなことしておれんということ
とで上京して、一発で決めてやろうと思って帰ってきたら、そこには
もう実家はなかったのです。親父がやっていた会社が倒産して、帰っ
てきて最初は一緒になって対応していましたが、最終合格に名前がな
かったことが分かった瞬間に、今まで最も感謝しなければならない親
父に向かって、あろうことか責任追及をしだしたのです。「なぜこんな
大事な時期に。来年から受けられないではないか。」というように。
100%親父が悪いというふうに非難したのです。最も感謝しなければな
らない親父を非難した私は、実は受験勉強が何の役にも立っていなか
ったのです。だから何をやっても上手くいかなかったのです。親父が
残した借金を返していく中で、やっと気づいたのは、親のすねをかじ
りすぎたために、会社を倒産させてしまったということがわかったの
ですね。自分の責任だったのです。今では100%自分の責任だったと
思っています。ですから、自分の内面を築けなかった自分の浅はかさ
から、どうしても生徒たちに伝えたいのは、自分の周りに起こったこ
とはすべて自分のせいだと思え、自分が変われば周りも変わるんだと
いうことです。それを良いものの考え方だと思っています。それと、
私はコツコツ勉強できなかったものですから、コツコツ勉強できる良
い習慣を身につけさせたいという一心で今まで頑張っただけでした。
これさえご理解いただければ、後は何でもご質問等にお答えさせて
いただければと思います。

三日月知事

総塾長、何かコメントを入れながらされますか。

志門塾
成瀬 氏

入れようと思っていましたが、時間がないので。資料でもお配りし
ておりますので、最後に生徒の受験体験をご覧ください。これで終わり
ます。

三日月知事

ありがとうございました。色々とプレゼン資料に記載いただいでい
ることも含め、後程また意見交換させていただきたいと思います。志
門塾の成瀬総塾長はじめ、志門塾の皆様には拍手をお願いします。

それでは続きまして、おうみ進学プラザの福井清人様、よろしく お
願いいたします。

おうみ進学プラザ
筈井 氏

おうみ進学プラザは私から発表させていただきます。前半は私で後

半に社長が発表いたします。おうみ進学プラザは「勉強と部活動の両立 がんばれ滋賀の子どもたち」というスローガンを掲げています。実際に私も教壇に立っていきまして、甲西教室と守山教室で英語と国語の集団授業を担当しています。現在の学習塾の指導の様子について、ご説明いたします。進学プラザグループは北海道から滋賀まで11道府県で、学習塾を運営しています。グループ全体の生徒数は約2万名です。その中で当社について。おうみ進学プラザは1985年に創立し、今年で30周年を迎えます。塾の中では老舗の部類に入ります。滋賀をはじめ、福井、京都にも展開し、幼児から小学生、中学生、高校生を対象にニーズに合わせて指導しています。一番下にございます通信制高校は、高校を退学してしまった生徒たちが勉強をやりなおすための学習の場です。残念なことに生徒数は年々増加しています。よく勉強してくれて、最近では専門学校や4年制大学にも合格してくれています。塾というと、学校の授業のイメージがあるかもしれないのですが、すけれども、まずは塾ならではの部門からご紹介いたします。その1つが個別指導です。生徒2人から3人に先生が1人つく指導方式で、進度や教材などは完全にその生徒オリジナルのものです。生徒一人ひとりのニーズに合わせるので、準備が結構大変です。また個別指導というと、補習のようなイメージを持ちがちなのですが、次の場面は個別の「俊英」のコースです。英語が好き、得意という生徒は、「俊英」のコースで勉強してもらいます。この場面の生徒は中学1年生で、中学3年生の英語の現在完了の授業をもうすでに学習しています。学校の進度よりかなり早く、内容も深くなっています。中学生のうちに高校内容までいくという計画を立てています。次に高校生部門です。滋賀県内では最もメジャーになっているのが、メディア学習です。有名予備校の講師の授業が映像で受けられるというのが特徴です。当社では河合塾と提携し、「河合塾マナビス」というシステムを導入しています。一昔前では、京都まで予備校に通っていたのですが、今では地元の塾で有名予備校の授業が受けられるので、大変人気です。進学実績も非常に良くて、東大津高校から京都大学、玉川高校から名古屋大学、八幡高校から関西大学という目を見張る例もあります。また高校生は大学見学ツアーに行きます。画像は神戸大学へ行った時の様子です。次に小・中部門の取組をイベントを中心にご紹介いたします。1つ目がオールイングリッシュの授業です。中学生を対象に行っていま

す。先生も生徒も授業をすべて英語で行うというものです。アメリカやカナダへ旅行に行くという設定で、子どもが楽しめるようなプログラムを毎回つくっています。また英語の取組で、夏休みに海外語学研修を行っています。写真は昨年、カナダへ行った時の様子です。次に小学生の取組として、理科に特化した合宿を夏休みに行っています。一番の目玉は天体観測で、塾の天体望遠鏡はコンピュータを装備した本格的なものです。そのほか、小学生は理科実験教室サイエンススクールをおこなったり、社会科では、世界遺産ツアーを行ったりしました。先週は姫路城に行ってきました。そして、塾ですので、受験の取組をご紹介します。滋賀県内の中高一貫校は非常に人気で、受験のニーズも大きくなっています。当社では小学6年生を対象に県中エクスプレスという県立中受験に特化したクラスを設けています。私も社長もこの授業を実際に指導しています。また中学生の受験対策として、冬に高島市の施設で勉強合宿を行っています。早朝散歩では、琵琶湖にむかって、「がんばるぞ」と叫んでもらうのですが、今の子はなかなか叫んでくれません。先生だけが叫んでいます。最後に当社のこだわりの取組を2つ紹介いたします。1つめはファミリーコンサートです。このねらいは、本物に触れるということで、西日本でも屈指のびわこホール大ホールで、全国でも非常に実力のある大津シンフォニックバンドが演奏します。クリスマスの時期に行い、生徒、家族を無料で招待して、昨年で15回目になりました。司会は当社の教員が行います。昨年は私が司会を務めさせていただきました。また、グループ内、東北の塾も多いため、復興支援活動を行っています。写真は、震災のあった年に当社の社員が出張授業へ赴いた宮城県石巻市の雄勝中学校です。今年の夏休みには、福島県南相馬市教育委員会の「学力向上支援プロジェクト」に参加いたしまして、6名の教員を派遣します。私も行って、頑張ってきます。少しでも支援のお手伝いになればと思っています。私からは以上です。続きまして、社長の福井よりお話いたします。

おうみ進学プラザ
福井 氏

終わったわけではないので、私の話も少しだけ聞いてください。地元ですので、少し辛口の滋賀県がんばってほしいということを簡単にお伝えします。全国学力テストです。塾は全国のデータを全部追跡しています。お手元の資料集の中に、滋賀県の成績はどうかということで、

塾ですので、偏差値もつけております。そういたしますと、滋賀県の子どもたちは偏差値換算をしますと 37、非常に極端な低学力の生徒であるという結果が出てしまいます。これは厳しいなと。私も滋賀で暮らし、滋賀で子育てをしておりますので、ここはですね、子どもたちがいろいろなことをやがて思いついたときに、学力がないから自分はその進路はあきらめざるをえないということが起こらないように、ぜひ、教育委員会、知事を先頭に、河原先生もそしてみなさんでがんばっていただいて、子どもたちの未来を開いていくベースになるだけの、一番になれ、二番になれではなくて、いろんな可能性を考えられるような学力ベースはつくってやっていただきたいなと。ぜひ頑張ってください、というふうに願っております。次に塾で 30 年、地元でやっていてどうですかというコメントが文書の中にありましたので、これも簡単に。やはり時代のせい子どもたちのあきらめが非常に早くなっています。私自身が 30 年、今でも現場で生徒たちを扱っているのですが、あきらめるタイミングが非常に早い、ねばれないという子どもたちになってきているなど。次に我慢ができないし、親も我慢をさせない。むしろ何かつらいことがあったら、それは誰かが悪い。例えば学校の先生であったり、我々塾のスタッフであったり。うちの子が辛い、困っている、怒っているのは、まわりの誰かが悪いというふうなケースが年々増えてきているなど。塾でも、そういう点では、これは困るねというケースをたくさん体験するようになりました。次に男女の性別による学力や将来設計の差が、どんどん開いていっているように思います。男子がますます幼く、かわいくなって行って、女子は年々非常にしっかりしている。この差が昔からあったのです。昔からあったのですが、この差はずいぶん開いてしまっている。高校生でも中学生、下手すると小学生じゃないかというふうな高校生がいますし、その逆、小学校 6 年生なのに、中学生か高校生か、下手をすれば女子大生と間違えるくらいの話ができる。この差は、これは滋賀県の教育うんぬんと無関係に開いてきていて、子どもたちを扱う時に、いろいろとおかしかったり困ったりするケースが増えております。以上、感想でございます。お聞きいただき、ありがとうございました。

ですけれども、後ほど、そういうことも踏まえて意見交換をさせていただければと思います。ありがとうございました。

つづきまして、株式会社タオから代表取締役社長の井内良三様、よろしく願いいたします。

株式会社タオ
井内 氏

それでは、みなさんこんばんは。与えられた時間は10分ということですので、精一杯お話しします。

今、お手元の資料ありますけれども、申し訳ない、資料を出したのが水曜日くらいなのです。そのあと、もっといいのがないかなあと考えていたら全然違うものになりました。ですので、お手元の資料を見ていただいても無駄ですので、こちらを注目していただけると助かります。

I C Tの将来展望と教育課題への貢献ということでお話しさせていただきます。ただ、そうは言いましても、私のところ株式会社タオというところが、実際にやっている業務を通じて感じていることになります。また10分という時間ですので、概略に全国はとか、いろいろなこと、可能性を言っていたら10分はあっという間に終わってしまいます。おもしろくもなんともない話になりますので、おもしろい話にするために、私のところでやっていることにしぼってお話をしたいと思います。でも、必ず参考になることがあると思いますので、よろしくお願いします。将来展望のことを少しだけ言います。それから、タオではどういう位置をとっているかというお話をします。それから、それがどんな課題に対して貢献になる可能性があるかというお話をさせていただきますたいと思います。

将来展望です。まずI C Tです。Iは情報ですよね。Cはコミュニケーションのテクノロジーということですけど、大きく分けてこの4つのことがあるのではないかと考えています。一つは個別に対応していくということです。いろんな捉え方がありますが、例えばアマゾンというところで本を買くと、しばらくするとあなたの欲しい本、こんな本どうですかときます。あれは個別に対応しているのです。向こうの方で、この人はこういう人だからという格好で。それを学校に置き換えると、この子はこういう子だから、この問題よりも、この問題を解く方が良いとか、間違えた履歴によって、個別の対応が可能です。それから情報伝達。これは、いろいろな人のコミュニケーションです。

子ども同士がいろいろなお話をして、そのことを集めて、いっしょに共同作業をするとか。そういうことが行われる可能性があります。あとは知識の集積です。これも学校でいろいろな子どもさんが問題を解いたら、問題を集めて、それを分析してということもできますし、また、もっと大きい知識の集積がインターネットですので、そこにいくと今までわからなかったことがぱっとわかったりとか、忘れていたことを、あれ何だったかなと思ったときに、ぱっと思い出したりとか、頭の中に全部覚えておかなくても、引っ掛かりだけ、方法だけ、調べる術だけあれば、引き出すことができると。これが知識の集積です。あと、音声・映像ということも書きました。これは理解を促進する、または表現を豊かにするために有効です。自分の考えを言葉にするだけでなしに映像にすると、ぱっと分かるとか。逆に映像で見ると、ピタゴラスの定理が、ああそういうことだったのかとわかるとか。そういうことがプラスになってくると思います。それで、まず2つ分けたいと思うのですが、ICTを活用して、働き、遊び、会話をし、生活する世界が必ず来ます。すでに、そうなっています。これは促進されつつありますので、逆戻りすることは考えられません。ICTを使って、こういうふうなことができる。できなかったら生活が困る。例えば、車に全く乗れない、電話を全くかけられないとすると生活が困るのと同じような形で、仕事をするにも何をするにも困る社会が来ると思います。ですので、2つに分けます。ICTを活用するための教育。これは絶対に要ります。それからもう一つは、よりよい教育のためのICT活用。これは分けるべきだと思います。これが混ざると、何かどっちつかずの、元々どの目的で始めたのか分からないことになってしまいますので、これを分けることを提案したいと思います。私の方が力を入れておりますのは、よりよい教育のためのICTの活用です。このことに力を入れております。実は、創業して23年余りになるのですが、子どもを主役にするような教育をしたいと思いました。一例を挙げます。簡単です。問題集があります。練習問題が入っています。できる子もできない子も、次を開けると応用問題です。ちょっと難しいです。できない子はしんどいですよね。また次のページを開けました。できない子にとってはたまりません。発展問題です。もう嫌ですよ。そこで次を開けると、高校の入試問題です。従って、ぴったりの子もいるのですが、そうでない方が向いている子もおりますけれど

も、印刷されているからね。だから、本が主役、子どもが脇役。学校の先生もそうです。一人が授業をするので、ぴったりの子どもさんもおりますが、先生もどこか見て、あの子はちょっとできすぎて遊んでいるとか、あの子は分からないから横を見ているとか、わかります。でも先生のペースは1つ。ペースが変えられないのですね。でも、変えられるのですよ、パソコン、I C Tの技術を使うとね。子どもを主役にして、その子に合った問題を出していくとか。それから、速度を変えるとか。そもそも、止めるとか。そこでヒントを出すとか。ということが出来ます。そういうことをしていったら、先生を開放するというのは、こういうことです。子どもさんに勉強をしてもらうということ自身は、勉強させるということ自身は、親御さんにとっても、先生にとっても負担が相当大きいと思います。子どもさんにとっても負担です。勉強させられるのは。でももっと興味を持つ子どもに合ったものであれば、先生をそこから一部開放して、どうするかといったら、人間でなかったらできないこと、人間でなかったらできない教育をしていくと。そのことをしていくことが、子どもさんを助けることにもなるし、先生もよくなると。こういうことができるのではないかなと23年前に考えました。タオは、ここに書いていますが、1992年にできた会社です。もともと滋賀県の甲賀郡甲西町で立ち上げました。今は草津市にあります。開発は23年余りです。当時パソコンが2.3%しか滋賀県で使われていませんでしたので、パソコンのない時代からやっておりました。業界では、パイオニアの一つとなっております。先ほど言った、このことをこういう言葉にしました。「日本で一番実効ある、実際に効果のある学習システムを作るんだ」と。これを旗印にして、はじめました。商品名は「天神」といいます。マルチメディア学習システム「天神」です。

ここでちょっと気になりましたので、聞いてみます。「天神」を知っている方おられますか？ありがとうございます。頑張ります。一層頑張ります。

「天神」は学問の神様の天神様に由来して、名前を付けました。日本の学習システムとして適当だと、最適だと思って名前を付けました。力強いですね、天神という言葉が。

レコード大賞は知っておられますか？日本のレコードの1番を決める大会ですね。e-learning大賞は知っておられますか？同じような形

で、学習システムの日本一を決める賞があるんです。

それはe-learningを推し進めている4つの省庁が後援に入っています。それぞれの省庁が大臣賞を出しています。文部科学大臣賞、経済産業大臣賞を出しています。でも、日本一が分からないですね。4つが並ぶと。それで大賞というのを上に置いているんです。e-learning大賞。一番上に置いているのです。その大賞にタオが選ばれました。学習システムとして日本一だということです。滋賀県にあるのですよ。滋賀県で23年間やってきたのです。その会社が学習システムで日本一になりました。

これは家内です。家内と二人で創業してずっとやってまいりましたので、最初に言った甲西町というのは私のところの自宅の2階です。そこで始めて、やってまいりました。審査員15人の先生方が大賞で全員一致したのが史上初です。後にも先にも当社だけです。そのときの講評がこれです。「高度に統合されたトータルな学習システム」だというふうに言ってくださいました。これが私が目指していたことなのです。きわめて有用だという講評をいただきました。役に立つということですね。幼児から高校まで全部揃えています。トータルですんでね。これは私の目指していたことです。何かだけということはないのです。

それからこれは、画面の1つですけど、ここを押すとね、幼児とか小学校とかが、ぱっぱっと切り替えられます。1つに入っています。1つに入っていますから、どんなことが起こるかといいますと、全教科全学年ありますけれど、算数の5年生で「単元」というところを押すと単元が出てくるんです。単元とは何か簡単に言います。例えば図形というところで言うと、「平面図形」というのが1つの単元なのです、5年生の。そうしたら、5年生算数の勉強というのがありますが、その一つをとってみたら、4年生で習うところもあるのですよ。3年で習うところもありますね。2年生、1年生、形づくりから始まって、こう上がってきますね。この上もあります。6年生、中1、中2、中3、数Ⅲという高校のところまで。こういう階段が描かれています。ここで分らなかったら、下げると有効なことがあるのです。ここはわからないけれど、2年下げるとわかる、とかね。ここから始めるとわかる、とかね。逆に得意な子どもさんは、先に進めようかと思ったら進められるのです。算数は嫌いだけど、歴史は中学校でもわかるという子どももおります。その子に合わせたいのです。合わせたいから、トータルに

したのです。全部の子どもさんに現在地があります。勉強がひとくくりに嫌いとか、得意とかいっても、みんな現在地が違うのですよ。その現在地から始めて、「これでいいんやで」とスタートするとみんなやっていけるのです。それが、「今の現在地が5年やから5年をしなければいけない」というとできない子になるのですよ。これを変えたかったのです。これは網の目です。子どもさんはどこかにいます。算数だったらここ、とかね。図形だったらここ、とかね。分数だったらここ、とか。網の目のどこかにいます。ここから始めていくという全部を網の目にするためにトータルです。

さて、機能も、普通はパソコンは、パソコンの画面だけで勉強するドリルという機能しかありません。でも、アニメーションで説明する機能をつけています。それからビデオで説明する機能もつけています。一つにしているということですね。統合されている。別々でなしにね。ビデオを見ました、問題を解きましたではなく、一つに統合されているんです。それからプリントですね。分からなかったら、そこでプリントを出すとか、ここからここまでと決めたら、試験問題が出てくるとか予想問題が出てくるとかいう格好で全部を統合したのです。例えば、こんな問題が出てきました。出てきて分からなかったらヒントが出るのですが、こういう格好でアニメーションでこれはこう考えようねと動きます。それでも分からなかったら、先生が出てきて説明してくれます。こんなふうに説明してくれます。ビデオだけでも4千ビデオあります。問題も出そうと思ったら、ぱっと出せるのです。もう一回やると違う問題、もう一回やると違う問題が出てきます。

それで、どんな課題が解決できる可能性があるのか。どんな可能性を解決しているかということをお話しします。まず個別対応です。先ほど言いましたけれど、子どもさんごとに、どこかに現在地がある。「現在地があるよ」と、「君の現在地ここやろ」という格好で対応ができます。またそこから上がっていく階段を、急な階段、ゆっくりした階段、変えることができます。それで、写真は私立の小学校ですけど、私立でないとなかなかこれは難しいです。難しいですので、そこを割り引いて聞いてください。授業が40分あったら、32〜33分して、あと、「天神」をやってくれているのです。そうすると子どもさんの、この单元の中でよくわかっている子どもさんはどんどん進めます。で、そうでない子どもさんは類題をぐるぐる解きます。分かっていない子ど

もさんは戻ったりします。だから 30 人が学習を始めて、30 通りの 8 分間をして授業を終えるのです。先生は巡回していきますから、それで学習の補充ができる。決まった問題を一律に解いて、10 分間、8 分間、解くよりもはるかに有効な学習ができます。それから、東京の学習塾の例です。見てください。今のところを見てほしいんですが。見てほしかったのは、普通、個別学習、個別指導の塾というのは、先ほどのお話にもありましたように、通常はね、こういう形で、子どもさんがいらっしゃったらね、1 対 2 とかで個別に丁寧に教えてくれるのですよ。それが普通です。1 対 3 とかね。天神の学習は 0 対 12 なんです。先生がいないのです。だから先生はね、最初に子どもさんに「今日、こうこう、こうしよう。前回よかったで。」というモチベーションを与えたりとか、それから「こうしよう」と指示をしたりとか、また、褒めたりとかいうようなことは人間でなかったらできませんから、人間がそういうことをします。でも、天神の学習は、その時間子どもさんに対応する先生は 0 ですので、先生は回りません。回るスペースがなかったでしょ。普通の個別指導はね、机と机の間に先生が座るスペースを作るのですよ。でも天神は 0 対 12 という学習です。この方法で、子どもさんが自分のペースでやっていくと、モチベーションをもってやっていくことができるのですよ。でも、そうでなくて、いつでも先生が付きっきりで指導してしまうと、教えないとできない、教えられないとできないという格好に先生も子どもさんになってしまいます。

それから、発達障害のことをお話します。発達障害ということが、今課題になっていることは皆さんご存知だと思うのですが、私のところでも、そういう声をたくさんお聞きします。これは神戸の山手短大のチャレンジ教室の様子です。読み書き障害です。読むこと、書くことが苦手な子どもさんです。でもこんな格好で勉強している、「天神」でね。どうしてできるのか、文字があるやないかと思われるでしょう？実はね、押せば問題を読んでもくれるのです。読み上げるのです。押せば解説を読み上げるのです。押せば答えを読み上げるのです。読み上げるの機能がついていますから。ですので、子どもさんは問題そのものは解けるというのか、解けたら自信がついていきますでしょ。そもそも読み書き障害だったら問題は聞けば解けるのに、解けない子どもさんになってしまいますよね。という格好で補うことでできるようにす

ると。そういう対応です。あと京都の養徳小学校とか栗東の葉山中学校とか玉川中学校とか、発達障害の教室でお使いいただいています。これは共同研究も兼ねて、また栗東のパームクリニック、宇野先生のところでも、共同研究ということで、お使いいただいて、いろいろな貴重なご意見もいただいて、改良を重ねております。不登校の子どもさんの高校受験も、これは草津市の教育委員会といっしょに話をさせていただいて、実際に、不登校の子どもさんの全員が高校受験に成功しました。先生がいくと、面談をすることも嫌がっている子どもさんでしたが、勉強を「天神」でやってくれて、中には勉強した結果、学校に少し行けた子どもさんもいます。高校は全員が受かりました。高校へ行ったら、子どもさんは元気に通っていると聞きましたので、高校受験することが、受かることが、きっかけとなったと理解しております。それから児童福祉施設。ご存知だと思うんですけど、18歳までは児童福祉施設にいたることができるのですが、18歳を過ぎると、その人はそこを出なければいけないということになっています。でもそれまでに進学や就労に学力が必要なのですけれど、児童福祉施設30人くらい、40人くらい、20人くらいの子どものさん、いろいろな子どものさん、ときには虐待等々で心の障害を持っている子どもさんがいるので、職員の方はそのケアだけしかできないということもありまして、本当は学力がいると言っておられるんですけど、人的なこと、経費的なことで手が回らないということです。例えば神戸の神愛子どもホームというところで、これは今から導入することが決まったんですけど、そのまま言いますね、1万800円ということで幼児から高校まで30名利用していただくということにしました。これは何かというと、うちの原価です。原価というのは、うち教科書準拠にしているんです。小学校、中学校ね。ですので教科書会社にもお金を払わなければいけません。それからいろいろな材料費というのがあって、これが30名使っていただくと、300円くらい月にかかるんです。これが原価です。でも、逆に言うと、この原価でそういうような可能性を子どもさんに持たせることができます。全部がこの原価で使っていただくとうちは成り立ちませんけど。そういうお困りなところには、こういふことができます。そこまではできるというふうに考えております。また、やりたいなと思っています。ICTの可能性ですが、多様な子どもさんに対応することができますので、「救う」と、ちょっときつい言葉を書きました

けれど、実際に子どもさんを救うということが、私は可能じゃないかなと考えております。この「救う」は同時に、これはご両親や先生も、学習指導から一部解放されて教育に集中すると。勉強させることから離れて、教育に集中する。で、人間の分担は、信じることとか認めること、見つけること、可能性をね、子どもさんの。それから話を聞いてあげることとか、モデルになることとかは、機械にはできません。うちはそういうことは絶対できないと思っています。人間しかできないので、人間にはここに集中してほしいのです。では機械はどんなことができるかという、いつでも対応することができます。嫌がらないで。それから苦手がありません。社会はちょっと苦手、理科はちょっと苦手、こういうことはありません。それから疲れません。これは大きいと思うんですよ。それから感情を交えません。3回同じことを聞いてくると、私も社員の人にちょっといらっとすることがありますけど、機械はありません。あとは、学校とか塾で連携ができるのじゃないかと思っています。というのは、1つ、私のところもクラウドでデータを置いていますが、学校でも使い、家庭でも使い、塾でも使って、3者がこういうことだから、こんなふうにするといいのではないですか、という形で。もしこれができると、これは夢物語ですよ、ハードルはたくさんあると思うのですが、そうすると連携ができるのではないかと思うのです。そういう可能性があるのではないかと思うのです。それから低価格化ですね。無料化と書きましたが、低価格化。これも可能性があると思います。一例を挙げます。百科事典、これ平凡社の大百科事典です。日本が誇る百科事典。本棚をあわせて32万円します。今でも売っています。32万円します。ご存知かもしれません。1997年からマイクロソフト社が販売したエンカルタです。動画も入っているし、いろいろな音声も入っています。キング牧師の演説なんかも聞けます。そういうことでいくらかというと、1万4千8百円です。ガクッと下がりました。魅力的な商品です。でも、この商品をマイクロソフトは、2009年をもって作るのをやめました。どうしてやめたかというと、ウィキペディアというのが出てきましてね、これ無料なのです。フリー。無料です。それでやめました。私もそうですけど、何かあったらウィキペディアで調べると。もちろん重要なことは違う裏付けをとらなければいけないこともありますけど、だいたい載っていますし、だいたいわかります。ということね。だから、いい物がたく

さんだったら、先ほど言ったように原価は安いのですよ、実はね。だから、たくさんだったら低価格化、無料化することはできます。そうすると、子どもさんにとって、またお家にとって福音になるのではないかなと。もちろん、専門的な、子どもさんの特性を見てするようなことは、塾の先生方、すばらしいノウハウがあると思うので、そこを發揮していただいて、教材自身は下げられるのではないかなと思っていきます。これが私の方の可能性の提言です。どうもありがとうございました。

三日月知事

ありがとうございました。

それぞれお三方から、熱く現状の教育に対して、また今後の可能性について、取組について言及していただきました。せっかくの機会ですので、時間の許す限り、意見交換をしたいと思います。それぞれ委員の方から何か、どの分野問わず、ご質問等ありますでしょうか。

宇野委員

ありがとうございました。私、実は昔、学生のころに塾をやっていたし、大学の教授に言われて発達障害の子どもたちの検査・トレーニングソフトの開発をする会社を立ち上げたりもしました。残念ながら上手くいきませんでした。

志門塾さんとおうみ進学プラザさんのおっしゃっておられたことで、もう少し小児科医として感じるところがございましたので、お話させていただきたいと思います。

子どもたちが伸びていくかを見るときに、他人のせいにするとはよくないとおっしゃっていただいたのですが、確かにそのとおりで、自分が悪いと思う子は自分が変わればいいわけですから、成長していくのですね。他人が悪いと思う子は、他人が悪いわけですから、自分が変わる必要がないので難しいのですね。

一番いいのは自他を比較して自分自身を適切に評価して、成長していくための方略を見出し、実践していくことが大事なことだと思います。

実際、塾の先生方は、現場で指導されていてどういうふうなことに気を付けながら、他人のせいにしない子どもを育てようと実践されているのかという点をお聞きしたいというのが一点と、タオさんについては、私がクリニックで障害児日中一時支援事業における学習支援の

ために、タオさんの学習ソフト「天神」を無料で貸していただき、一緒にどうしていけばよいか研究させていただいておりましたので、その印象と、今回2年ぶりにお話を伺った感想をお話しさせていただきたいと思います。

発達障害の子どもにとってどうかという点で考えると、発達障害の子どもへの支援の中で、特殊なアプローチが必要なケースがあります。例えば、発達性読み書き障害のディスレクシアで使用する「デージー」などの読み上げをするソフトなどです。これはタオさんのソフトにもその機能がありますね。

もう一つは、特殊な教材教具が必要なわけではなく、与えるべき教育課題は定型発達の子どものと全く同じものでよいのですが、教科ごとに学習到達度のばらつきが大きいケースです。その点においても、このソフトでは能力に合わせた課題設定が容易にできるという点が、発達障害の子どもを支援する上で大変有効だと思います。また、発達障害の子どもたちは聴覚理解が弱いので、視覚提示をすることが大事になってきます。人の話を聞くのが苦手なので、一斉授業で先生が話をされても、ほとんど学習効果が上がらないことは良くあります。つまり、自分のペースで納得しながら視覚的に学習する自学自習タイプが多いのです。その子に合った課題設定ができて、視覚提示がされ、自学自習ができるという点では、発達障害の子どもに対してはもちろん、今の子どもたちにとっても、とてもいいソフトだと思います。

不登校の子どもも対人的な過敏性のある子どもが多いですからこのソフトは有効なツールとなりうると思います。適応指導教室などで活用されることで、子どもたちが自信を取り戻す契機の一つになりうると思います。

三日月知事

ありがとうございます。関連した質問もあるかもしれませんので後程伺うとして、せっかくの機会ですので、志門塾さん、おうみ進学プラザさんで他人のせいにせず、自責に持っていくために何か工夫されている指導方法などがあれば。

志門塾
成瀬 氏

私の塾の講師には、授業の前後に必ず、自分の言葉で自分の体験を経験として話すようにと伝えています。こんな失敗をしたけれど、今思うとこんな意味があるというようなことをです。

私は全体会でことあるごとに経験をお話しし、お盆特訓、正月特訓、中学三年生、受験生には年 10 回模擬試験があるんですが、全試験会場で、結婚とは何か、仕事とは何かということをお話します。私はバツイチです。理解できない子どもには無理をしますが、理解できると思ったらそういうことも話します。こういう事情で好きになって、しかしこういう事情で別れたと。しかし、また好きな人ができたと。これは普通なら不倫になって、塾なんかは一発で閉鎖、潰れるはずですよ。なぜ潰れなかったかという、君たちを教えてくれている先生方のおかげなのだと伝えます。生きることの意味から、頑張ることの本当の意味、特に失敗談を話すようにと言っています。成功例は自慢話になりかねません。失敗談は自分の言葉で語る中で、その意味が何であったかということ語ることであります。

今の生徒は自分のことを捨象してほっぽり出して、外界のことばかりを学んでいて、自分の内面を見つめる機会がないのです。昔はあったのです。両親や、近所のおじさん、おばさんとかいろんなところで大人との触れ合いがありました。今、魅力的な大人が子どもに関わっていません。下手に注意すると逆にやられるかもしれないという時代になってしまっています。ですから、もっと大人が関わっていく。我々大人の側にも財産があるし、生徒もすごい財産を持っているのですが、それに気付いていないので、それに気付かせる。だから、タオの井内社長がおっしゃったように、先生の役割は機械ではできないことに特化していく必要があると思います。そうすれば学力はもっと上がると思います。思っている以上に。

そして、人生で成功するためには何が必要かということは分かっているわけです。それを身に付けさせる必要があるのと同時に、学力も伸ばしてあげる必要があります。こういった視点で、各先生方が実践して、生徒たちに語っていただいているということが当塾でやっていることです。

三日月知事

福井さんどうぞ。

おうみ進学プラザ
福井 氏

私どもでは、今の生徒は何かを注意すると合理化しようとして、「今日は部活で疲れている」とか「風邪気味で三日ほど寝ていたので宿題ができていない」あるいは「メモするページを間違えたのでやってこ

なかったただけだ」といったことを、非常にスピーディーに言い訳を瞬間的に考えます。

しかし、その時に許さない。それは約束が違う、ルールが違うということで、ルールに照らしてしっかり叱ります。たまたま昨日も廊下がうるさいということで、先ほど発表した筈井が中学生をものすごい剣幕で怒鳴って、一瞬で静かになったということがありましたが、ルールは守ってもらう。ただ、手厳しく叱った後は必ずフォローする。「熱があったという話は聞いたから、今はもう大丈夫なの？」と。ルール違反は厳しく叱るけれども、必ず後でフォローするというのを組み合わせています。

三日月知事

ありがとうございます。後程タオの井内社長からもご意見をいただきたいと思います。ほかに何か、せっかくの機会です。

土井委員

意見というよりは、先ほどおうみ進学プラザさんから出していただいた資料の確認なのですが、全国学力調査の結果について偏差値の資料を出していただいていますけれども、これは基本的にどう算出されているのでしょうか。各県の平均点の分布を偏差値化するとこうなるということなのでしょうか。滋賀の子どもたちの偏差値の平均がこうだということではないですね。

おうみ進学プラザ
福井氏

そうです。県の平均点、滋賀君という生徒が一人いたとしてということです。

藤田委員長

今日は大変いい内容のお話を伺いました。

私たちもずいぶん勉強になりました。成瀬様自身の人間性から出てくる、人間力、子どもに与える知識、これをうまく組み合わせて授業をされているということがよく分かりましたし、また、おうみ進学プラザさんのICTと知識とそしていろんな行動、いろんな場所へ出向いて行って、それらを上手く活用して教育全体を組み立てておられると感じました。タオさんは、ICTの機能と特徴をもった「天神」は素晴らしいと思います。これら全てが県でできるとは思いませんが、相当頑張って普及した方がいいような気がします。ただし、これを見るとそれぞれ特徴があるのですが、この特徴をどのように学校教育で生かすかという、

すごく難しい問題になります。ただ、三つともすべて必要だと思います。その中でおそらく、今の教育にすぐにヒントになるのは、非常に強調されておられた、「辛抱できない」「あきらめやすい」「我慢」とか、そういうことかと思いますね。

男の子と、女の子の差については、私の会社でも面接を行えば、明らかに出来ます。女の子ばかりが合格になる、ということになり、しかし、それではバランスが悪くなります。そういうことが一体なぜそうなるのかということについて、原因などをどう考えておられますか。

おうみ進学プラザ
福井 氏

私なりの解釈ですが、女の子は親離れをしようとする意識が強いです。中学生ぐらいになるともう対等な大人と大人、そしてよく姉妹のような母娘ということになるようです。一方、男の子は核家族化の中で、母親がとても細かく手をかけられるので、本人も親離れをしたくないという子が多いです。例えば、大学進学の際に男子は家から通える大学に行きたいと言います。女子は下宿したいと言います。したがって、北海道大学や長崎大学など遠いところに行こうとするのは多くは女子です。男子はまずは家から通える範囲ということで考えていきます。知事のように、一橋大学に行こうとは、今の子どもはなかなか思いません。

藤田委員長

ご指摘いただいたことが、現代の若者を象徴しているようなことだと思います。しかし、これを教育というフィールドの中で考えると、知識の習得とか、もちろんICTなどでできることはやるのですけれども、あくまで「人間である」ということに着目して考えるということが大切だと思います。

「大いなる精神は、静かに忍耐する」という人間ができなければ、どれだけ知識を教えても、最後は本当に未来に役立つ人なのかという気がします。

今までの議論を聞いていると本当にその通りだと思います。どういう形で教育に生かすのか、委員の一人として考えさせられます。

三日月知事

せっかくの機会ですので何か。

志門塾
成瀬 氏

私は時代的背景、環境に影響を受けていると思います。でもそれが大事だと思います。子どもは古今東西昔から、全然変わっていない部分

があつて、それが教育の成せる役割であると思いますし、「男子が・・・」という話がありましたが、最後に伸びてくるのは男子が多いです。私は男子というのは、小さい時からあまり世間を見ていないと思います。一方、女性は現実的だと思います。だから社会を見ています。だから早く自立するという、そういうアンテナを持っているのだと思います。統計も何もない私の第六感です。ですから私は、男女差も全然恐れることはないと思いますし、傾向は傾向として受け入れるけれども、それは自分たちの一つの資料にしていくということだと思っています。

株式会社タオ
井内 氏

場違いかもしれませんが、私もそう感じます。女の子の方がしっかりしていて、男の子の方が頼りないと思います。一言でいうと、それは女の子向けの教育を全員にしているからだだと思います。失敗しない、先を考える、理屈でやるというのが女の子に向けた育て方であつて、それは女の子の性に対しては正しいと思うのです。それを全員に対して行っていて、しかし、男の子は考えないので、そうすると危なっかしいから止めていく。止めていったのに、成長してどこかのところで急にしっかりしなさいと言っても、習慣がついていないので頼りなく感じるのです。女の子の育て方をしていって、女の子には合っている育て方を、男の子には合っていない育て方をしているので差がついてしまつて、中にはそうでない育て方をされている男の子もおられるかもしれませんが、ごく少数というのが今の状態だと思います。

河原教育長

こういう場でないとお聞きできないと思いますので、公教育とは違う立場から見て、公教育に足りない部分は何なのか、公教育が大切にしなければならぬものは何なのか、お聞きしたいです。

三日月知事

言いたいことを言ってくださいね。

おうみ進学プラザ
福井 氏

では、私からよろしいでしょうか。いわゆる「頑固先生」ですね。烈火のごとく怒って、あの先生に怒られたらかなわんと思わせるような、頑固な、筋の通った、しかし怒るだけではない先生が、そういう先生が少なくとも学校に1人おられたらずいぶん雰囲気は変わると思います。

今、塾でも親からのいろいろなクレームを受けますし、学校はさぞかし大変だろうと感じています。そういう中で、先生みんなが頑固になったら生徒も大変でしょうけど、あの先生に呼び出されてこれから怒ら

れるなんてえらいことだ、と思わせる先生がいれば、他の先生もやりやすいし、生徒の学校で過ごす態度も変わると思います。昔はそういう先生がいました。教育委員会で頑固係を決めるわけにはいきませんかでしょうが、そういう筋の通った頑固先生は、今まさに財産だと思っています。

志門塾
成瀬 氏

今、典型的な例としておっしゃっていただいたと思いますけれども、要は本音で語る先生、喜びも悲しみも分かち合える、そんな先生が少なくなったということですよね。そういう先生を人事で選び、そしてそういうことができる環境にしていくことが必要ですよ。先生の力を信じていけばかなり変わると思います。

文部科学省の役人の方は、学校現場の先生を信じておられないと思います。本音で語り、喜びも悲しみも分かち合える、そういう先生が溢れたら変わってきますよ。子どもが先生を好きになり、好きな人のためには頑張りますよね。先生のために頑張るようになる。そういう循環を作れば進歩だと思います。

株式会社タオ
井内 氏

先ほどお話をさせていただいた取組の中で、不登校の子どもに対する取組があります。教育委員会が学校に対して、「こういう取組をしていますよ。無料ですよ。」と参加を呼び掛けたところ、受け入れた学校と、やめておこうと言った学校がありました。やめた学校では、その学校のご父兄から、どうしてあの学校の子はできるのに、うちの子はダメなのかといった意見が出ました。

その話を聞いて感じたのは、良い点がこれだけあって、でも悪い点がひとつあるかもしれないからやめておこうだと、全部やめることになりますよね。ただ、学校の先生方は、私もお付き合いがありますが、みなさん良い方なのです。社会全体が不寛容になって、良い先生が苦しんでいる現状があると思います。まず、先生を楽にする必要があるのではないかと思います。校務とかいろいろな処理がたくさんありますから、できるだけ楽にして、教育だけに集中してくださいとした上で、チャレンジを呼びかけないと。それをやらないで、「チャレンジしましょう。昔みたいにやりましょう。」といっても、苦しむだけになると思います。

三日月知事

ありがとうございます。他に何かご意見はありますか。

志門塾
成瀬 氏

今、先生方がおっしゃったことは、戦後の民主主義教育の精算をしないといけないということだと思います。現状は全然されていない。その教育で育った大人が今、現役ですよ。高い学力を付けて良い学校に行

くことが良い、という考えがまだあるのですね。だからその延長線上で人気企業ランキングが決まったりして、その企業に就職すれば安定できると。そのような安定志向な高学歴者が集まると、日本社会はどうにもなりませんよね。だから戦後の民主主義教育の精算をしっかりと、その上で何をしなければならないかを考えることから始めないと、問題は払拭できないと思います。

三日月知事

ありがとうございます。

時間ありませんが、せっかくの機会なので、事務局から何か質問等はありませんか。

おうみ進学プラザ
福井氏

私から少しよろしいでしょうか。実は30年前ですと、学校の教員採用試験に3年落ち続けた、でも食べていけないといけなから塾に勤めますという応募が結構ありました。

今は変わっていて、学校の現職の先生の応募が年間相当数に達します。

三日月知事

現職の先生が塾の採用試験を受けるということでしょうか。

おうみ進学プラザ
福井氏

はい。では一般的な学生はどうかというと、教育系の学部出身でも、そもそも学校は考えていない。「学校の先生は大変そうだから第一志望は塾です」という子が多いです。

今朝の日経新聞に載っていましたが、残業の多い先生ほど職業への満足度も高いというデータが出ていました。そういう頑張っている先生方をより頑張りがやすくすることをぜひ、県庁と教育委員会で考えて、教師は魅力的な仕事なのだ、学校の先生として頑張りたいと思わせていただきたいです。むしろ、我々塾が良い人材が来てくれなくて困ると嘆くような状況を作っていただきたいと思います。

三日月知事

非常に丁寧に、優しく言っていただきましたが、厳しく中身の濃いことを言っていただいた気がします。実際はどうか、事務局の担当者からお願いします。

教職員課長

確かに、滋賀大学の教育学部を出ても、教員にはなりたくないという人もいます。ですが、滋賀県は「教師塾」という取組をやっておりまし

て、教師を目指している学生に、教師の仕事はいかに頑張る価値がある仕事かということ、先輩の教師から教えてもらう機会を作り、教師の魅力を分かってもらった上で、さらに、教師の仕事はこういうものである、こういうふうにしていかなければならないということを伝えて、採用試験を受けていただくという取組をしています。さらに、高校生に対しても教師の魅力を伝えて、高校生の頃から教師を目指していただくための取組も進めています。教師の仕事とは、子どもたちの人生にすごく影響を与える仕事ですし、非常に魅力がある仕事だと思います。難しいところもたくさんありますが、目指すところは非常に高いというか、魅力がある仕事だと我々は思っておりますし、そのように学生には伝えております。

三日月知事

おそらく、入り口はそうだと思うのですよね。それはそれで努力されていると思いますが、いみじくも社長がおっしゃっているのは、そうやって熱意を持って頑張ろうとしている人が打ちひしがれてしまう、燃え尽きてしまう、より大変になってしまっている現状を、行政として、教育委員会として、もっと考えて改めるようにというご指摘ですよね。

土井委員

この問題は、公教育に対して保護者が抱いている期待と密接に関連していますよね。すべての保護者が、学校は教科教育さえしてくれればよい、しつけは家でします、ということになれば、今おっしゃっていただいたような理想はすぐに実現すると思います。しかし、むしろ今は逆になってしまっていて、勉強は塾で見てもらおうので、その他もろもろのことを学校でやってくださいという状況になりかねません。また、塾に通わせることが出来る家庭と、経済的事情で塾に通わせられない家庭があって、家庭的に他の教育機会を与えられない子をどうするかという問題を公教育は抱えています。この状況の中で公教育がどう対応していくかという問題だと思います。

教科教育をやりたいという思いを持っている先生がその他のことをするのがしんどくなってきて他の道を考える可能性はあるかと思えますけれども、しかし、子どもが好きで、いろいろな生活の面倒を含めてやりたいと思っている先生方は頑張っていると思います。ですから、行政的にどうなのかということではなく、県民のみなさんが公教育に何を期待されているかということ、県民のみなさんと一緒に考えていかないと、なかなか解決できない問題だと思います。

三日月知事

ありがとうございます。重要な視点でご意見をいただきました。

私が気になっていたのは、学習塾からの意見・提案と資料に書かれていたことについて言及がなかったかと思いますが。

おうみ進学プラザ
福井 氏

そこについての言及はご遠慮します。

ただ、現場の先生は本当に大変だと感じています。前任の先生に電話してテストのデータをメールで送ってもらうとか、そういう形で仕事の省力化を図っておられるようなので、それだったら堂々と、県の教育委員会で「これだけの教材データを県が持っていますから時間と労力を節約できますよ。」ということをしていただきたい。こういったことは民間の塾でもできるのですから、行政の力を使えばよりグレードの高いものができるのではないかと考えております。

藤田委員長

だんだん国の方でもオープンデータ化の仕組みができていますしね。先生方は本当に熱意を持ってやってくださっているし、ある程度教育に向いているとか好きな人じゃないとできない職業だと思うのですよね。

中心には子どもがいても、行政としてはいろいろな問題に対応しなければなりませんし、PTAとか地域の方は、本来の自分たちの役割を全部こちらに持ってきている現状があるのではないかと思います。それについても先生方は対応しなければならない。もっと先生方を信頼して、もっと自由にやらせてあげたらいいのにと私はいつも思っておりますけれども、いろいろな難しい問題があって、今日も塾ならではの教育効果とかたくさんのご意見をいただきましたが、それをどう公教育の中で取り組めばいいのか悩みますね。しかしヒントはたくさんいただいたと感じます。現場の先生方がいかに教育しやすい環境にできるかが大事ですよ。

三日月知事

ありがとうございました。盛り上がってきて、まだまだこれからが本番、というところですが、時間の制約もありますのでこの辺で終わらせていただきたいと思います。

今日いただいたご意見や資料は、私たちなりに咀嚼して噛みしめながら、今後どう公教育を作っていけばいいのか勉強させていただきたいと思います。引き続き、いろいろな角度からご指導いただきたいと思います。

確かな学力をつけるための学ぶ力を高めようということでやっていますが、そこについてもたくさんのご示唆をいただきました。社会の一員になるために、ということをよく言いますけれども、既に子どもも社会の一員なのですよね。社会の一員として、ふさわしい成長、発育、勉強というものを、どう学校で、塾で、家庭でやっていくのか、人間の内面を見る機会も必要でしょうし、いろいろな課題を抱えている子に個別に取り組んでいくことも必要でしょうし、そういったときに ICT の技術も活かさないといけないので、そういう面についてもご意見をいただきました。

お忙しい中、塾はこの時間帯は特にお忙しいと思いますが、こういう機会を作っていただいて感謝申し上げます。ありがとうございました。

司	会
---	---

ありがとうございました。第2回総合教育会議も非常に有意義なものになったと思います。本日の会議を踏まえ、今後の教育施策や第3回以降の重点施策の検討等に活用させていただきたいと思っております。それでは、これで第2回滋賀県総合教育会議を終了させていただきます。

終了